

令和4年度 鶴舞小・学校評価リーフレット

保護者アンケート・児童アンケートを参考に、一年間の取り組みを振り返りました。
来年度の取り組みに生かしてまいりたいと思います。

令和5年3月

名古屋市立鶴舞小学校長 久野 賢二

学校教育目標

進んで学習に取り組む子

仲よく協力できる子

じょうぶな体をつくる子

年度目標<知>

※学校努力点※

いきいきと伝え合う

『「伝えたい!」が

生まれる授業づくり』

- 相手の意見を受け入れ、深く学ぶ。
- 表現力を高め、発揮する。
- 自ら計画し、やり遂げる。
- ・解決したいと思える学習課題の工夫。
(実物、具体物、体験活動等)
- ・学習の振り返りを重要視。
(考えの共有と可視化)
- ・思いを形にする発表の場を充実。

年度目標<徳>

心ポカポカと 関わり合う

- みんなが主役の「たてわり活動」
- 誰とでも仲良く関わり合う。
- 指示待ちせず、考えて行動する。
- ・縦割り活動の充実。
(遊び、関わり合い)
- ・人間関係づくりを重要視。
(場に応じた言葉遣いや態度、ソーシャルスキルの育成)

年度目標<体>

元気もいも鍛え合う

- 外遊びで心身のリフレッシュ。
- 自ら体調管理ができるようになる。
- タブレットの誘惑に打ち勝つ。
- ・学期1回の「つるまカップ」を開催。
- ・運動カードの工夫。
(運動例、目標達成)
- ・「1日1回外遊び」の奨励。

「つるまタイム」を新設
隔週火曜日の1時間目。月2回程度。
内容は「体」(体育集会)と「徳」(たてわり集会)。
学校行事とも関連付けて年間計画を作成。児童の主体的な活動の場とする。

今年度の取り組みを振り返って

【いきいきと伝え合う - 『伝えたい!』が生まれる授業づくり-】

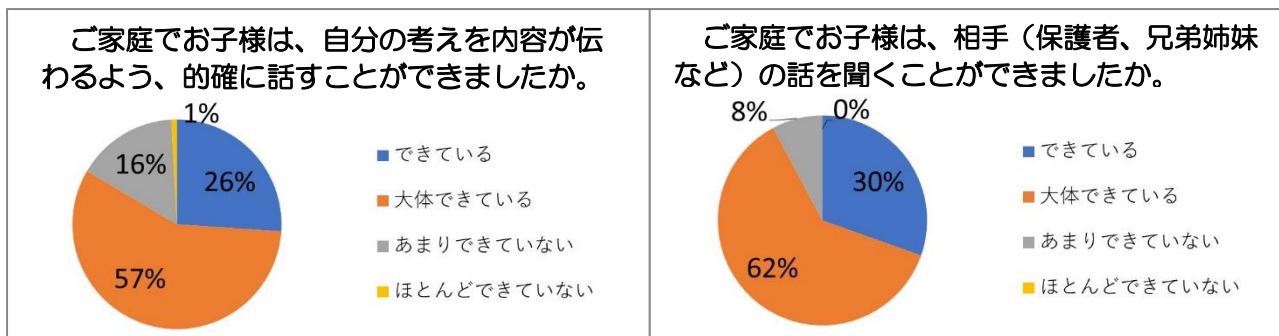
知 学校努力点

写真

自分の考えを伝え合うことで、考えを広げたり深めたりすることができるように、授業実践を行ってきました。伝え合いを生み出す活動として、7月に行った作品展では、一人一人が作品紹介する動画を作成し、子どもたちが自分の作品の良さについて「いきいきと伝える」ことができました。

また、係活動や委員会活動、縦割り活動など様々な場面で「話型を使いながら伝え合う」「指名なし、自由発言での発表」を活用し、子どもたちの伝え合う力を高めてきました。授業の中でも進んで課題を解決するためお互いの意見を交わし合うようになり、子どもたちは自然と「伝えたい」という思いをもつようになってきています。

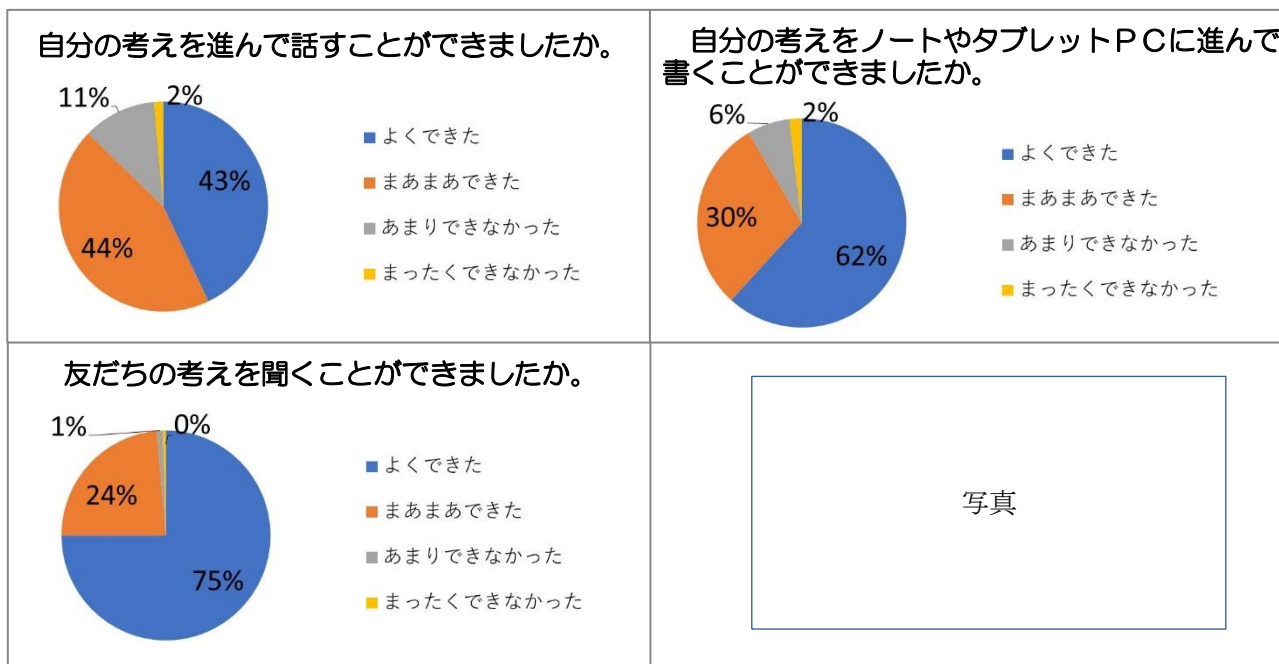
保護者のアンケート



保護者からは以下のようなご意見もいただきました。（「考えを伝えたい！」「話しを聞きたい！」という思いをもつことができるように、今後大切にさせたいと思われること。）

- 家族みんなでの話がしやすいような時間の確保と雰囲気作りが大事なと思います。
- 大人が積極的に子どもの話を聞くようにして、大人側の意見（答え）を押し付けないようにする。
- 色んな考えの人がいるということを理解すること。
- 子どもが話しかけてきた時は、手をとめて座って話を聞くことを心がけています。また、話したことには否定をせず、受け止めることを心がけています。
- 聞かない人を注意するのではなく、話し手が聞きたくなるような話をするのが大切だと自分で認識してほしいです。（どうしたら人を惹きつけることができるのかなど。）
- 大人の見解を押し付けず、失敗しても良いので自分で考えて伝えることに挑戦してほしいです。その結果を受けて、失敗を否定せず、うまくいく方法を一緒に考えながらアドバイスしていけたらと思います。

子どものアンケート



【「もう一度学習したい」と思った授業、またそのように考えた理由】

- 「国語」 「めだか」ではタブレットPCを使ってみんなで意見を送り合って、いろいろな意見を見て「なるほど」と思いました。また、私の送った意見にも返信してくれる子がいて、うれしかったから「もう一度学習したい」と思いました。
- 「体育」 高跳びやハードル走のグループの話し合いで、みんなで目標を決めて今日はどれくらいのタイムかな？目標をこえたかな？や今日はどれくらいの高さまで跳べたか？と言ってみんなで協力して体育をやったのが楽しかったし「もう一度学習したい」と思った授業です。
- 「出張授業」 グループの中でどうやったら思い通りに動かせるかなどをたくさん話したり聞いたりして、プログラミングをしていたことがとても楽しく、自分の考えもたくさん言えて、友だちのどうしたらいいかということもたくさん聞けたから。

授業や係活動など様々な場面において「ここから△△ということがわかります。だから私は☆☆と考えます。」などの話型を活用し、話し合いを活発にする工夫や、意見を交わし合う場面でタブレットPCや付箋紙などの活用もしました。他の子と様々なやりとりをすることで、学びが深まり「もっと〇〇したい」という思いが生まれてきています。今後も子どもたちが考えを共有したり、意見を交わし合ったりしながら、「進んで学習に取り組む」ことができるよう進めていきます。

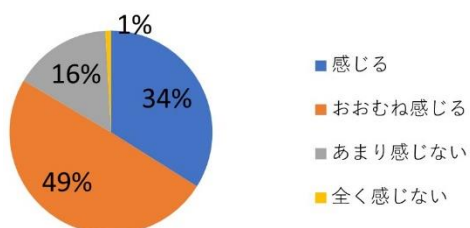
【心ポカポカと関わり合う】徳

写真

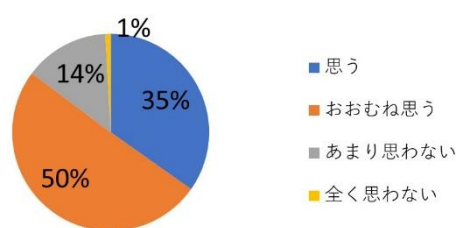
縦割り班で、遠足、なかよし遊び、落ち葉拾い大会、つるまフェスティバルなどを行いました。活動の中や活動後の振り返りにおいて、互いに声を掛け合ったり、ペアの友達とメッセージカードを交換したりすることで、児童間の仲を深める共に、あたたかい人間関係づくりができるようになってきました。

保護者のアンケート

異学年の友達（知っている人）が増えたと感じられますか。



縦割り活動が、仲よく活動することに結び付いていると思えますか。

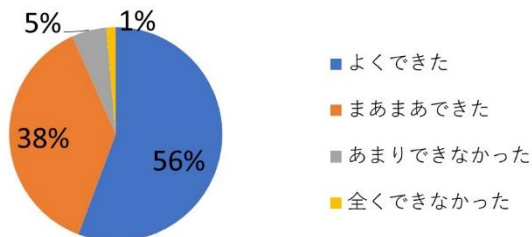


保護者からは以下のようなご意見もいただきました。（異学年の友だちとの交流の中で、今後大切にさせたいと思われること）

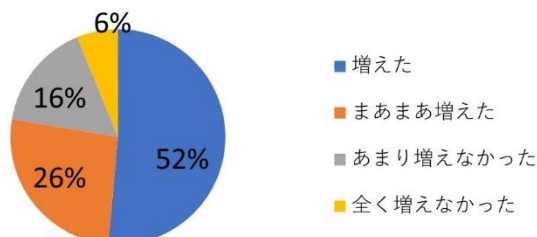
- 学年関係なく交流できるタイミングがありとても有難いです。同じ学年だからという仲間意識も大事ですが、学年を超えても仲間意識ができて助け合えると嬉しいです。
- 下級生は上級生に対する接し方（敬う気持ちをもつなど）、上級生は、下級生のお手本となるよう、思いやりをもって接することを大切にさせたいと思います。
- 仲がいい中でもきちんと上下関係を学ばせたいです。

子どものアンケート

縦割り活動で、相手の気持ちを考えて適切な言葉で話したり接したりすることができましたか。



普段からペアの子とあいさつや会話をするが増えましたか。



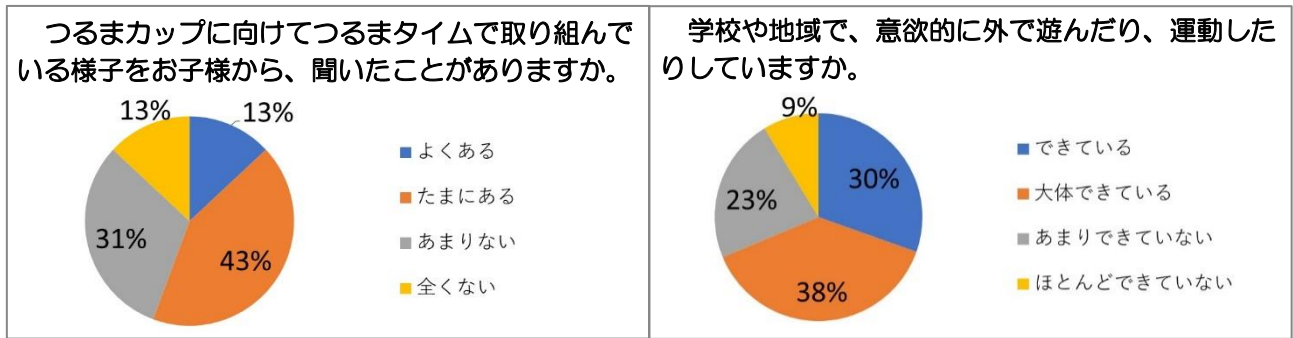
鶴舞小学校ならではの取り組みの一つである「縦割り活動、異学年交流」は、あたたかい人間関係づくりを学ぶ場として、大切にしていきたいと考えています。今後も縦割り活動や異学年での交流が進めていく中で、「誰とでも仲よく関わり合う」ことや「協力して活動できる」ことなどを目指して、様々な取り組みを進めていきます。

【元気もりもり鍛え合う】体

写真

「つるまタイム」の時間を使って縦割り班の友達と運動に取り組み、つるまカップ（転がしドッジ、ボール送り、長縄跳び）で競い合い、仲を深めながら運動に親しむことができました。

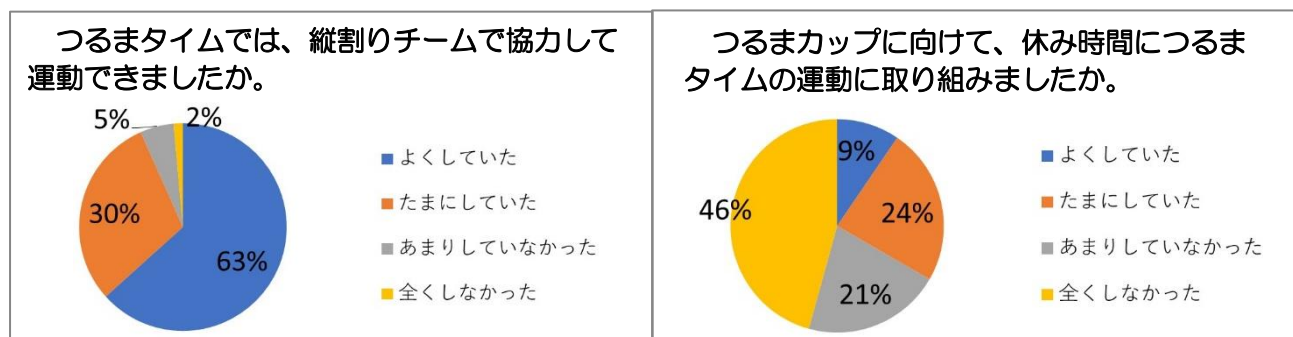
保護者のアンケート



保護者からは以下のようなご意見もいただきました。（「じょうぶな体をつくる」という視点から、今後大切にさせたいと思われること）

- 運動習慣の継続。また地域で子どもだけで遊ばせるには不安もあるため、現在のようにトワイライトの際に体育館や運動場を開放してもらえるとありがたいです。
- 学校からメディアコントロールの呼びかけをしてほしいです。外で遊びたいと思っても、高学年になるほどゲームで遊ぶ子が増え、一緒に外で遊べる子が少ないのが悩みです。

子どものアンケート



今年度行った「つるまカップ」には好意的な意見を多数いただきました。来年度は工事により運動場に使用制限がかかるため、現在、子どもたちの外での活動計画を見直しているところです。そのような状況下であっても、体を動かすことの「楽しさ」を子どもたちが感じることができ、積極的に運動に取り組むことができる工夫を進めていきます。

【保護者の皆様からいただいた感想や気付かれた点】（抜粋）

- ・ コロナ禍でも、工夫して様々な活動があってよかったです。校外学習にもっと行けると子どもは喜ぶと思います。
- ・ いろいろな行事や、新しい取り組みもあり、色々考えてくださっているのが伝わってきます。ありがとうございます。ただ、少々忙しい感じもしています。先生たちの負担を減らして、普段の日常に集中できるようにして下さってもよいと思います。
- ・ つるまカップは、年に何度も開催され、全学年が参加できてとてもよい企画だと思います。運動会も他の学年の様子も見れ、地域みんなで楽しめる雰囲気がいよいと思います。徒競走の名前が呼ばれないのは、ちょっと残念でした。水泳の授業が委託になり、専用のプール、専任のコーチに指導してもらえ、とてもよかったです。予算の都合もあるとは思いますが、もう少し回数が多かったらさらによいと思います。
- ・ 鶴舞小学校らしいペア学級活動はとても素晴らしく継続してもらえればありがたいです。
- ・ タブレットの活用方法をもっと改善して欲しいです。使用時間の制限、連絡帳としての活用（紙での連絡に替えて、PDF 配信、メール連絡）、タイピングの練習、プログラミング演習、他県や外国の小学生との zoom 活用による交流・学習・英会話等の活用。
- ・ なかなか規則を守れなかったり、思いやりが足りなかったりする子どもが、我々の子どものころよりも増えているように感じています。子どもたちの意思を尊重しつつも、守ることは守る、困っているときは助け合うなどは、子どもたちのころに経験してほしいです。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

コロナ禍において保護者の皆様には様々な対応をお願いし、学校も対策をしてきました。振り返ってみるとその取り組みは「子どもたちにとって、より良いもの」が原点でした。このことは今後も変わることはありません。今回いただいた様々なご意見も参考にさせていただき、今の子どもたちにとって学校ができることは何かを考え、取り組んでまいりますので、今後もご理解・ご協力よろしくお願いたします。